


☆公害による健康被害を許すな!
☆自然環境・生活環境の破壊を許すな!



ヤマシャクヤク

大阪から公害をなくす会 ニュース

大阪から公害をなくす会
〒540-0026 大阪市中央区内本町2-1-19
内本町松屋ビル10 370号
TEL 06-6949-8120/FAX 06-6949-8121
E-mail : oskougai@coast.ocn.ne.jp
URL http://oskougai.com/
発行責任者 金谷 邦夫
年間購読料一部2,000円(送料共)

第19回 環境学校を開催!

9月21日(日) 大阪科学センターにて、第19回環境学校を 89名の参加で開催しました。冒頭、金谷学校長が「CO₂削減の地球的合意はまだまだで、日本

は世界で笑いものになっている。これは我々の運動の弱さもある。具体的な市民運動にしていきたいため、本日の学習をご一緒に学び生かしていこう」と訴えました。

科学者による地球温暖化の現状把握と 自然エネルギーによる対策技術



～風力発電を中心にして～
河野 仁氏
(兵庫県立大学名誉教授)

多くの観測データを基に、温暖化のメカニズムは以下のものである。

- ①地球温暖化により地球の平均気温の上昇(平均値の変化)。
- ②偏西風波動が変化することにより、普段と異なった気象が頻発する(振幅の変化)。
- ③気温の上昇により、海面水温も上昇し、大気中の水蒸気量が増加して、「集中豪雨の増加」「強い台風増加」。

日本における温室効果ガス対策の最重要課題は風力発電の普及として、台風への適切な技術対応ができれば、海岸、沿岸、山頂、島などで十分な風速があり風力発電に適している。発電単価は太陽光発電の約1/4と安価である。再生可能エネルギーの導入ポテンシャルも風力が高いことを多くの資料で説明。

地域の条件にあわせての再生可能エネルギーの活用と省エネが必要だ。

IPCC報告とCOP 日本の課題



—人類の将来がかかっている—
浅岡 美恵氏
(気候ネットワーク代表・弁護士)

猛暑日、スーパー台風、集中豪雨、斜面崩落、極端少雨・山火事と、日本でも世界でも気候がおかしい。気温が高くなるほど、異常気象が

重く広範におこり、生命健康への影響が起こっている。

IPCC第5次報告書は「気候システムの温暖化は疑う余地がない」「今後、何世紀にもわたって持続する」と明らかにし、全地球の平均気温の上昇を2℃を超えないようにすべきと科学的見解を表明。

日本のCO₂排出量の長期目標(2050年・90年比80%削減)は維持しているが、2020年目標は25%削減を撤回して+3.1%を暫定目標として世界から批判されている。2020年以降に石炭火力発電所の計画が続々とあるのが日本の現状。原子力に依存せず、CO₂削減の道を選択しよう。

参加者からは次のような感想が寄せられました。「再生可能エネルギーの中で風力発電の現実性の高さが本日の説明でよくわかりました。また、技術の面でいくら進歩してもそれを隠してでも原発にこだわる政府の姿勢を変えない限り、国民はだまされたままムダに電気代を支払われ、環境の悪化が進んでいくのだと感じました」

「国産のエネルギー源として石炭は有効と思っていましたが、温暖化にも健康にも悪いというのが今日学んだ新しい点です。省エネ住宅や再生可能エネルギーの開発や設置に早くしっかり政策を転換しないと、環境へも経済的にも大きな損失であると思う」(中森芳明)

